

拠点名称：「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点

代表機関	東京藝術大学	プロジェクトリーダー	伊藤 達矢 東京藝術大学 社会連携センター 特任教授
参画機関	東海国立大学機構・岐阜大学、東海国立大学機構・名古屋大学、京都大学、横浜市立大学、長岡造形大学、慶應義塾大学、国立精神・神経医療研究センター、国立病院機構・東京医療センター、株式会社アトレ、株式会社今治、夢スポーツ、株式会社インビジ、エーザイ株式会社、株式会社オリイ研究所、株式会社QDLレーザ、株式会社小学館、SOMPOホールディングス株式会社、大日本印刷株式会社、日本電気株式会社、株式会社乃村工藝社、ヤマト運輸株式会社、ヤマハ株式会社、株式会社リクルート、社会福祉法人台東区社会福祉協議会、独立行政法人国立美術館、公益財団法人東京都歴史文化財団東京都美術館、一般社団法人プラスケア、一般社団法人岡山障害者文化芸術協会、東京都、石川県、岐阜県、愛媛県、取手市、浦安市、川崎市、名張市、三豊市		

プロジェクトの概要

NEXT SDGsとして「こころの豊かさ」を掲げ、誰もが生涯を通じて自分らしくいられる「居場所」と「出番」をもち続け、幸福で健康的な生活を送れる社会を目指す。

しかし、こうした未来のありたい社会像の実現を阻害するのが、超高齢化社会における「望まない孤独や社会的孤立」である。

これを乗り越えるために、本拠点ではアートと福祉・医療・テクノロジーを融合させ、多様な人々と社会とを結ぶ「文化的処方」（社会的処方の援用）を開発し、孤独孤立及び精神的貧困の解決に取り組む。

これにより、幸福度の向上、生産的活動に参加する人口の拡大、新たな経済価値の創出、社会保障支出の縮減及び、健康状態の回復・予防に係る継続的な効果を達成する。

拠点を掲げる2030年以降にありたい社会像

誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って、精神的に豊かな生活を楽しむことのできる共生社会

- ・あらゆる壁や境界を融かす「アート」によって、一人ひとりが「ときめき」を感じながら生きる。
- ・多様な価値観を認め合い、助ける、助けられるの二元論を越えた「緩やかなつながり」を実現。
- ・新しい楽しみや出会いが次々と生まれる「苗床」が世界中に広がる。



NEXT SDGs
NEXT SDGsにおいては一人ひとりの「こころの豊かさ」を重要な概念とする必要性を提起していく。

拠点名	「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点	
ビジョン	福祉・医療・テクノロジーと融合したアートコミュニケーションによる誰もが“自分らしく”いられる共生社会の実現	

